

平成27年3月 第112回

大野・勝山地区広域行政事務組合議会 定例会 会議録（第2日）
議 事 日 程（第2号）

平成27年3月27日（金）

午前10時00分 開 議

- 第1 議案第1号 平成27年度大野・勝山地区広域行政事務組合一般会計予算
議案第2号 平成27年度大野・勝山地区広域行政事務組合ふるさと市町村圏
振興事業特別会計予算
- 第2 一般質問
- 第3 議案第3号 監査委員の選任について

出 席 議 員（10名）

1番	松山信裕君	2番	門善孝君
3番	山内征夫君	4番	安居久繁君
5番	北山謙治君	6番	廣田憲徳君
7番	松田元栄君	8番	梅林厚子君
9番	松原啓治君	10番	畑中章男君

説明のため出席した者

管理者	岡田高大君	副管理者	山岸正裕君
参事	下河育太君	参事	松村誠一君
愛護センター 所長	松田公二君	会計管理者	米津源一君
企画総務部長	田中雄一郎君	企画財政部長	三屋修一君
事務局長	鉾崎昭治君	事務局次長	山田正一郎君

書 記

書記長

山 村 正 人

書記長補佐

西 川 千 鶴 代

書 記

安 井 妙 子

書 記

前 田 晃 宏

議事

(午前10時10分 開議)

○ 議長 (松山信裕君)

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元にお配りしたとおりであります。

これより日程に入ります。

日程第1「議案第1号、議案第2号」の2件を一括議題といたします。

これより質疑並びに日程第2「一般質問」を合わせて行います。

門 善孝君の質問を許します。

(2番 門 善孝君 登壇)

○ 2番 (門 善孝君)

おはようございます。

新しい庁舎、何か素晴らしいなという気がします。その中で質問させていただきます。

まず第1点目にリサイクルプラザでの火災事故についてでございます。

ことしの1月6日におきましたリサイクルプラザでの事故報告についてでございますが、先日の説明でリサイクル施設の前処理施設において、携帯用のガスコンロの中のスプレー缶が混じっていたということで、そのスプレー缶のボンベの中身に破砕機の火花が飛び火して火災になったということでございました。被害額は約400万円であったとの報告でございます。直ちに各市の担当課に対して、スプレー缶の穴あけを広報して周知を徹底し、このような事故の再発防止に取り組んだとの報告でございました。

そこでお尋ねをさせていただきますのは、今回のような携帯用ガスコンロのスプレー缶ぐらいであれば、かなり混じる恐れがあります。そういったスプレー缶でそれほどの火災事故が起きるのであるかと思われ、お尋ねをする次第でございます。とはいえ火災が実

際は起きているわけございまして、リサイクル施設の想定事故の中には、爆発事故のようなもっと大きな場合が想定されているのではないかと思われませんが、このような数個のスプレー缶であっても耐えられるような施設であったというように思っております。

このことに関することとしましては、市民への周知はもちろんのことではありますが、処理施設としての事故防止対策も必要でございます。どのように取り組まれているのかお尋ねをいたします。

次に、広域でのごみ処理施設が順調に稼働していることから、ごみ処理に厳しかったときのことをすっかり忘れてしまい、つつい気が緩んでごみの分別が甘くなり、何でもありとなってしまいがちでございますが、このことが今回の事故につながっているように思われてなりません。日ごろからのたゆまぬ取り組みが必要と思われまます。ごみ処理の実態を見てみますと、この広域でのごみ処理施設が稼働してより、人口は66,594人から61,518人と約1割減少しているが、一人一日当たりのごみ処理量はそれほど減少しておりません。さらなる取り組みが必要になると思われてなりません。

そこでお尋ねいたしますのは、ごみ減量化の数値目標である平成32年度15,500トンを達成するため、今後どのように取り組まれるのかをお尋ねいたします。

以上2点、お尋ねいたします。

○ 議長 (松山信裕君)

門君の質問に対する理事者の答弁を求めます。

事務局長、鉦崎君。

(事務局長 鉦崎昭治君 登壇)

○ 事務局長 (鉦崎昭治君)

門議員の御質問にお答えさせていただきます。

まず1件目の「処理施設としての事故防止対策等」についてでございますが、最初に、このたびのリサイクル施設の粗破砕機内部におきまして火災が発生し、関係者の皆様に多大な御心配と御迷惑をお掛けしましたことをおわび申し上げます。

誠に申し訳ございませんでした。

スプレー缶などによります火災は、他の自治体のごみ収集車や処理施設においても、多数の事例が報告されていることから、平成18年に環境省は、自治体が設置するごみ処理施設の適正な維持管理及び安全管理を図るため、事故対応マニュアル作成指針を策定し、事故対応への留意点等を示しております。

このようなことから、本組合では平成19年に「一般廃棄物処理施設事故対応マニュアル」を策定し、火災事故、爆発事故など、ごみ処理施設において起こり得る可能性のある事故について対応方法を定めるとともに、マニュアルに基づいた消防訓練を毎年実施しております。

また、このたびのような火災をあらかじめ想定して、施設内の各所に消火栓や消火用スプリンクラーを備えておりますし、爆発事故の際には被害を最小限にとどめるための爆風放散とびらを設けております。

粗破砕機内部での火災は年に十数回発生しており、これまでは消火用スプリンクラーで鎮火しておりましたが、今回は火の勢いが強く、建屋内で煙が充満し、火元まで近づくことが困難であったことから、消防署の出動を要請したところであります。

今後の事故防止対策につきましては、火災の原因となりますガスボンベやヘアスプレー缶など、可燃性ガスを取り扱うごみは日常的に多数、搬入されていることから、事故を未然に防ぐために、大野市・勝山市の2月広報誌に「スプレー缶穴あけ」啓発記事を掲載し

ていただくとともに本事務組合ホームページにおいても掲載いたしました。

また、プラットホームでは、搬入されます不燃ごみの袋内の種類、内容物の確認をさらに徹底することとしておりますし、粗破砕機内の火災に備えまして、粗破砕機の上部に散水栓を1基増設いたしました。

さらに監視機械での鎮火を確認した後、複数の職員で機器内部及び周辺機器の鎮火を徹底して確認することとしております。

次に2件目の「ごみ減量化への取り組みについて」でございますが、昨年の12月議会でもお答えさせていただいておりますとおり、一般廃棄物の処理は地方自治体の責務となっておりまして、大野市・勝山市では、ごみの収集業務をはじめ、ごみの発生及び排出抑制やリサイクルの啓発の役割を担っており、本組合ではごみの処理業務を担当することとなっております。

このようなことから両市では、ごみの減量化と適正なごみ分別を推進するためにごみカレンダーや広報などで、住民意識の啓発活動を行っておりまして、本組合はその啓発活動に役立てていただくために、ごみ処理状況などの情報を提供するなど、連携を図りながら取り組んでおります。

本組合では、ごみ処理経費削減に向けた資源化と減量化を推進するために、平成32年度の搬入量目標を1万5,500トンとしておりますが、この数値は平成23年3月に組合議会に御報告させていただいておりますように、大野市の「越前おおの環境基本計画」、勝山市の「第五次総合計画」の計画目標値に基づきまして設定いたしましたものであります。

平成25年度の下水道汚泥を除きますごみ搬入量は1万9,020トンとなっており、さらに3,520トン削減しなければ目標値を達成することはできません。

ごみの減量化は、ごみ処理施設の延命化にもつながる重要な課題でありますので、今後とも大野市・勝山市がごみ減量化計画を達成できるよう、これまで以上に連携してまいりたいと考えております。

○ 議長（松山信裕君）

2番、門君。

○ 2番（門 善孝君）

今ほどお話をいただきました。

ごみ処理の計画目標値についてはそれぞれの市で、それぞれのサイドで決めているということの中で、その集計値が1万5,500トンということで、実は平成18年度の7月ぐらいから、確か、この施設が稼働したように思っています。それが平成18年度の7月からのごみ処理量がおおむね2万トンという、人口が6万7,370人ということで、25年度になりますと、1万9,020トンと。人口は6万1,000人と。ごみ処理量については約1,000トンぐらい減っているというところで、それほどの減少がない。

あと、大野市・勝山市のごみ処理量をずっと18年度から25年度まで見てみますと、大野市は少ない年で875トンぐらいから920トンまでと。勝山市では755トンから790トンということで、おおむね、大体120トンぐらいの差があるということで、直接担当に聞きますと、その原因というのはよく分からないと。いわゆる、はっきりいって、市民生活の違い、どこに違いがあるのか分かりませんが、その辺によって、そういった差があるのはやむを得ないのかなというように思っております。

こういったことの目標値に対して取り組むということで、それがひいてはリサイクルプラザあるいは溶融炉の延命措置につながり、今後の課題に対応する条件が整ってくるというように思います。

一点だけお伺いしたいのは、先ほど言った

ように、ガスボンベというよりもあのようなガス缶、スプレー缶といったものは非常に収集の段で集めてきても、中身が入っているかどうか分かりにくい。その辺で非常に目視でも中身が入っているかどうかを見ることは非常に難しいのではないかなというように思うのですけれども、その辺どうかという気がします。

もう一点。実は平成18年度から、もうこの施設も約10年ですね。ことし27年ですから、約10年たとうとしているということで、これまでの大規模改修の実態の中で施設全体をどういうふうに行っているかとなさっているか。

そのことと、もう一点。10年たつからには、やはり新しいごみ処理計画があると、その辺もどういうふうに行っているのか。今の現状で結構ですので、分かる範囲内で御説明願いたい。

10年一区切りですから、やはり、その辺は両市のほうで、今から詰めるのかもしれませんが、その辺で、広域の中でそういったことも説明あるいは各市町村の中で周知、徹底を図るべきではないかなというように思いで再度質問させていただきます。

○ 議長（松山信裕君）

事務局長、鉾崎君。

○ 事務局長（鉾崎昭治君）

済みません、先ほどの私の答弁の中で間違っていましたので、それをまず訂正させていただきます。

平成25年度の下水道汚泥を除きますごみ搬入量は1万9,020トン。済みませんでした。

それから再質問についてお答えさせていただきます。

まず確認の方法でございますけれども、ごみ収集車等がごみを搬入してきた場合に、プラットホームで一遍あけていただいて、そのホーム上で袋を開かせていただくと。開かせ

ていただいて、職員が目視で缶を見て、それから、手かぎとといいますか、それで缶に穴を開けるということで機械の中に入れるというような形でやらせていただいております。

それから空き缶等に入っている場合については、職員がまた手で開いて、手かぎで穴を開けるとかという形で処理をさせていただいております。

それから施設をどのようにしていくかでございますけれども、32年、目標年度に向けて、毎年計画的に整備計画をしておりますけれども、周囲の事情等が許されれば、その施設の延命化措置等を考慮していく必要があるのではないかと。これについては、まず関係市、地元等との御了解等を得ていく必要があるかと思っております。

それから、ごみ処理計画につきましても、今後大野市・勝山市の状況、将来的な展望等を踏まえた上で両市と御相談させていただきながら、また策定していただきたいと考えております。

よろしく願いいたします。

○ 議長（松山信裕君）

門君。

○ 2番（門 善孝君）

ありがたいと思います。職員の分別も非常に大変だなと。そういったことから、今回、やはり質問させていただくわけでございまして、一つ一つ見て、手で分別するというのは並大抵ではないなと。あれだけの量があるのですから、その辺も職員の危険性もありますので、十分慎重に対応していただく中で、ごみ処理に当たっていただきたいということを思います。

それから私自身もふと気がついたのですが、けれども、ごみ処理に当たってから、平成18年からことし27年ということで、おおむね10年たつということで、その4年先に32年の計画

があるという形でございますので、今から、またそういった全体のごみ処理計画を立てていただくということもできようかなと思えます。

もう一点、これ、しつこいようですが、大規模修繕とか、施設の計画的な延命措置を図っていると思われるのですけれども、もし、分かりましたら、その辺、もう少し分かるように説明いただけたらと思えます。

○ 議長（松山信裕君）

事務局長、鉾崎君。

○ 事務局長（鉾崎昭治君）

済みません、具体的な数字については記憶していないので、申し訳ないです。把握していないので申し訳ないのですけれども、約1億円前後ということで、毎年、計画的にどの箇所をことし直す、翌年はどの箇所を直すというような形で計画的に実施しております。

少しでも経費の平準化と機械の寿命を長くするというので取り組んでおります。

○ 議長（松山信裕君）

門君。

○ 2番（門 善孝君）

ことしの予算書を見れば修繕費で1億2,000万円ほど上がっているということで、そういったことは確実になされているのではないかなと、私は思いました。ただ、確認のためにもどうかかなと思って質問をさせていただきました。

そういったことで、延命措置を図ることがまず第一で、その次の段階に入りますけれども、今のところはそういったことで広域のほうで対応していただけたらという思いで質問をさせていただきました。

以上で質問を終わります。

○ 議長（松山信裕君）

以上で門 善孝君の質問を終結いたします。

これにて質疑並びに一般質問を終結いたし

ます。

これより討論に入ります。

(「なし」の声あり)

○ 議長(松山信裕君)

討論なしと認めます。討論を終結いたします。

これより

議案第1号 平成27年度大野・勝山地区広域行政事務組合一般会計予算

議案第2号 平成27年度大野・勝山地区広域行政事務組合ふるさと市町村圏振興事業特別会計予算

以上2件を一括して採決いたします。

お諮りいたします。

以上2件については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○ 議長(松山信裕君)

御異議なしと認めます。よって、議案第1号、議案第2号の2件は、原案のとおり可決されました。

日程第3

議案第3号 監査委員の選任についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

管理者、岡田君。

(管理者 岡田高大君 登壇)

○ 管理者(岡田高大君)

ただいま上程されました議案第3号につきまして、説明申し上げます。

本案は、大野・勝山地区広域行政事務組合監査委員の選任について御同意を求めるところでございます。

関係市の識見を有する監査委員のうちから選任させていただきました川田重一氏が3月15日に辞職され、現在、識見を有する監査委員が欠員となっておりますので、その後任といたしまして、識見を有する監査委員から本

田 章氏を選任いたしたく、規約第9条第2項の規定によりまして、議会の御同意を賜りたいと存じますので、よろしくお願いたします。

○ 議長(松山信裕君)

お諮りいたします。

本案は人事に関する案件でありますので、質疑・討論を省略し、直ちに採決いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○ 議長(松山信裕君)

御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案についてはこれに同意することに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○ 議長(松山信裕君)

御異議なしと認めます。よって

議案第3号 監査委員の選任についてはこれに同意することに決しました。

以上で本定例会の付議事件は全て議了いたしました。

これをもちまして、平成27年3月第112回大野・勝山地区広域行政事務組合議会定例会を閉会いたします。

御苦労さまでございました。

(午前10時37分 閉会)

